

第24回 国債トップリテーター会議

資 料

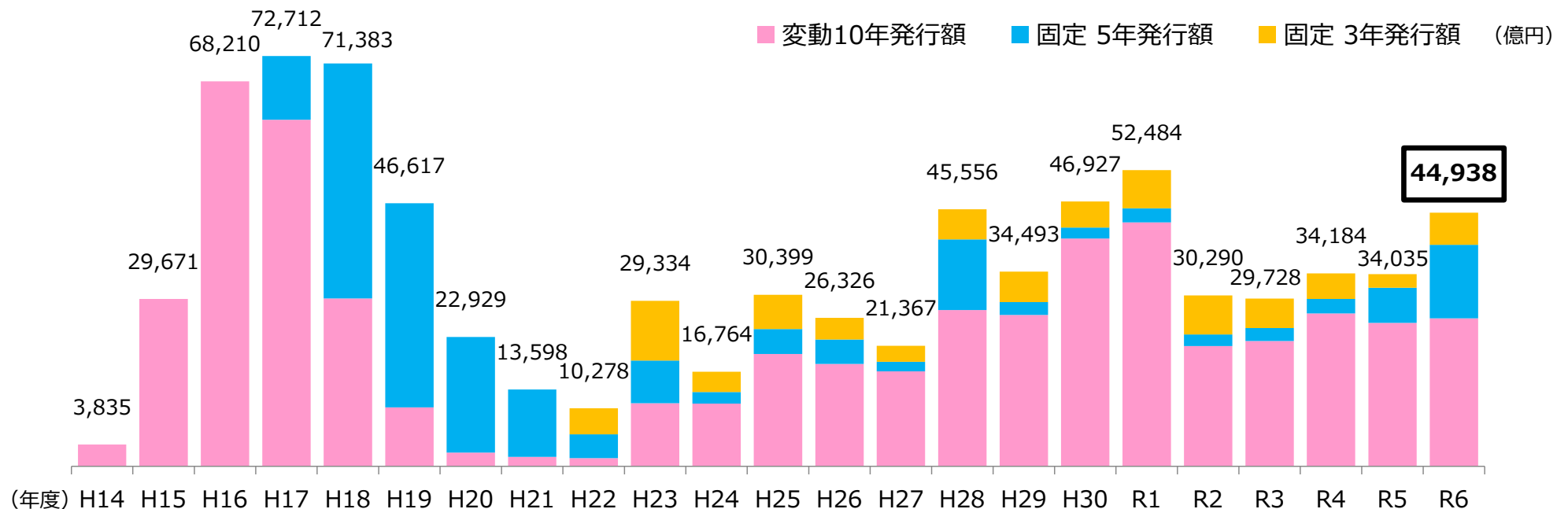
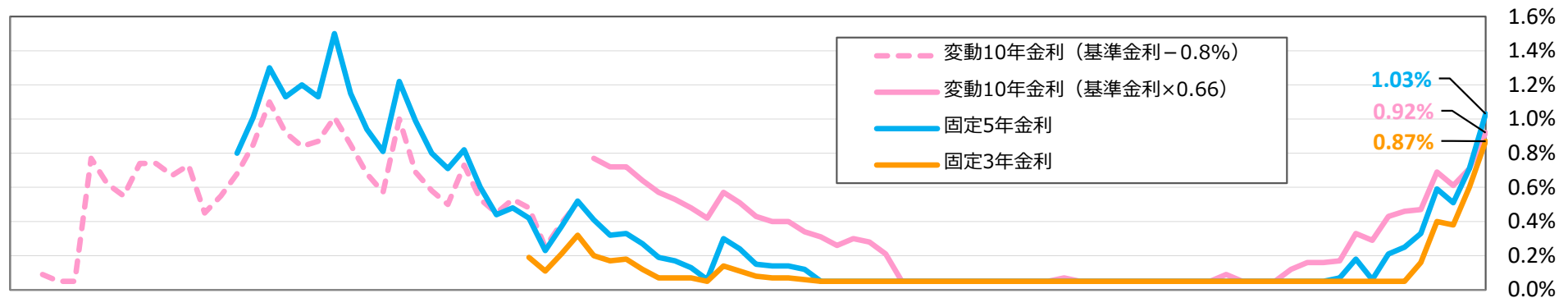
(個人向け国債の販売動向等について)

個人向け国債の販売動向等について（発行額の推移）

- 令和6年度発行総額は、**4兆4,938億円**（対前年度比+1兆904億円、+32.0%）と、令和5年度から大幅に増加。
- 内訳は、**変動10年**が**2兆6,222億円**（対前年度比+789億円、+3.1%）、**固定5年**が**1兆3,024億円**（対前年度比+6,805億円、+109.4%）、**固定3年**が**5,692億円**（対前年度比+3,309億円、+138.9%）となっており、**固定5年及び3年の販売額が顕著に増加**。

■ 個人向け国債の発行額の推移

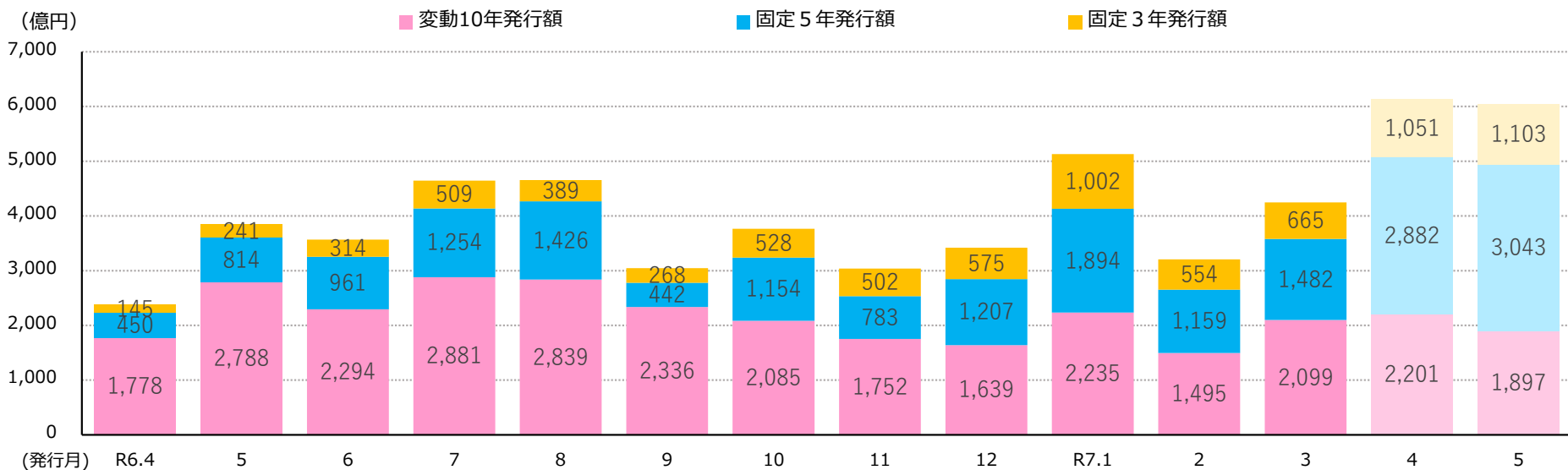
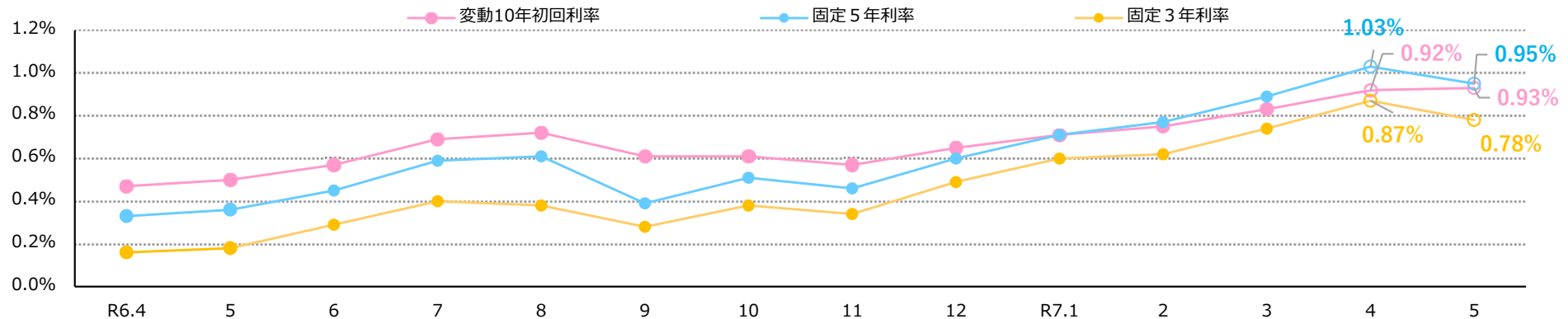
※金利は各年度4、7、10、1月発行分の推移



個人向け国債の販売動向等について（各月の発行額）

- 令和6年度の月平均販売額は**3,745億円（対前年度+32%）**。各月の発行額では、金利動向等の要因により固定5年及び3年の販売額が大きく増加し、令和7年度に入ってもこの傾向が続いている。
- 当局が実施した取扱機関へのヒアリングでは、
 - 金利上昇により投資妙味が出てきたこともあり、**新規購入や継続購入を希望する顧客が増加**。
 - これまで変動10年が圧倒的に人気だったが、**固定5年の金利上昇に伴い変動10年より売れる月もある**。との意見が聞かれた。

■ 利率及び発行額の推移

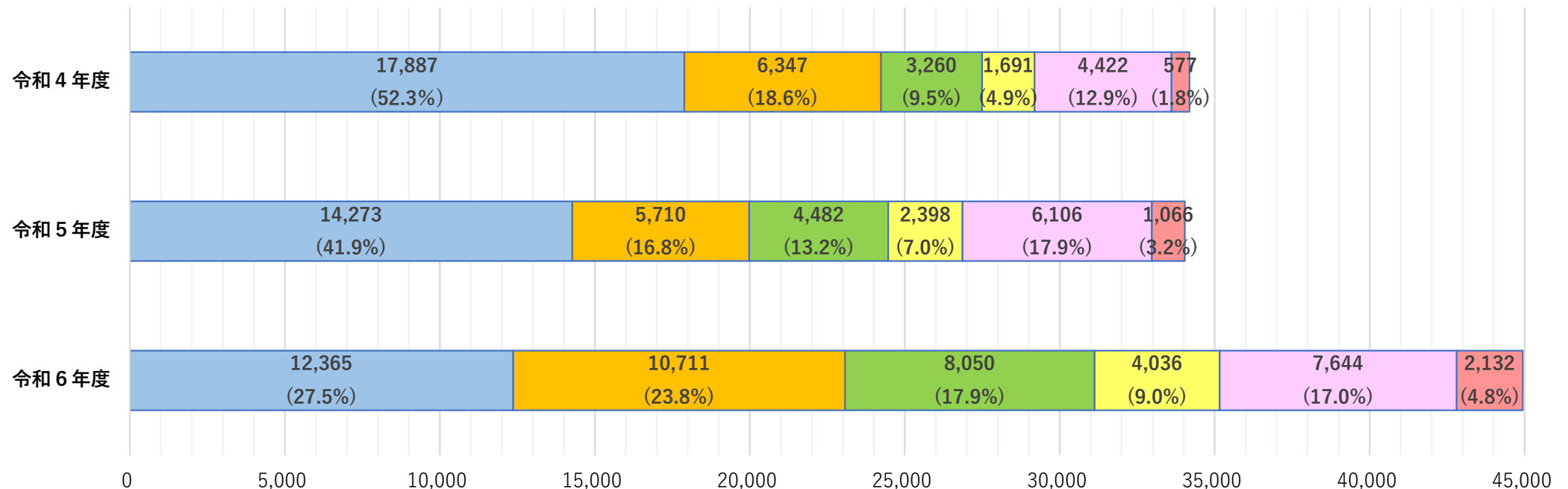


個人向け国債の販売動向等について（業態別販売動向）

- 近年の販売実績額の内訳を業態別で見ると、**証券会社が減少傾向**となっている一方、**他の業態では概ね増加傾向**となっている。
- 当局が実施した取扱機関へのヒアリングでは、
 - 個人向けの社債発行額が増加傾向であったことから、**個人向け国債から社債市場に一部の資金が流れた印象**。（証券会社）
 - **定期預金金利との対比で金利妙味**から購入する顧客が多くなっている。金利が上昇する中、**リスクを取れない顧客でも安心して購入出来る**ことが需要が増えている要因だろう。（地方銀行、信用金庫）との意見が聞かれた。

■ 業態別販売額・割合推移

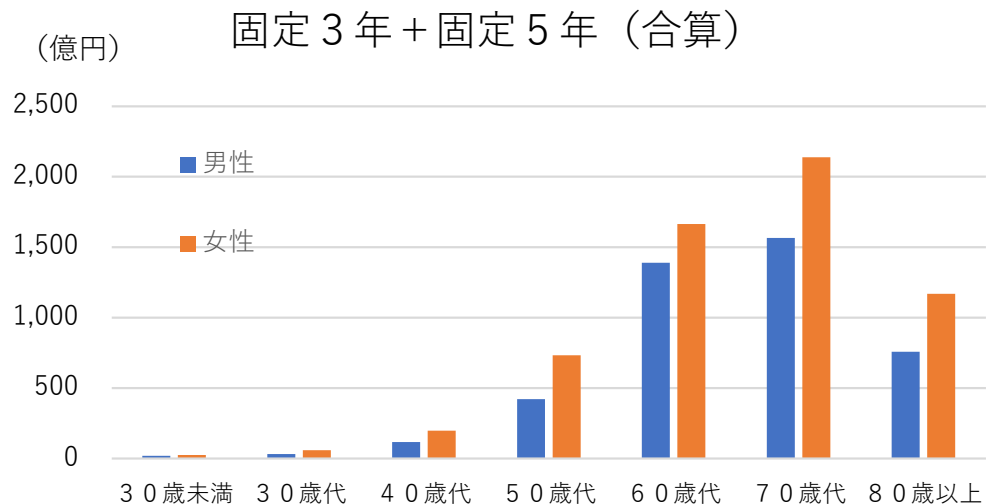
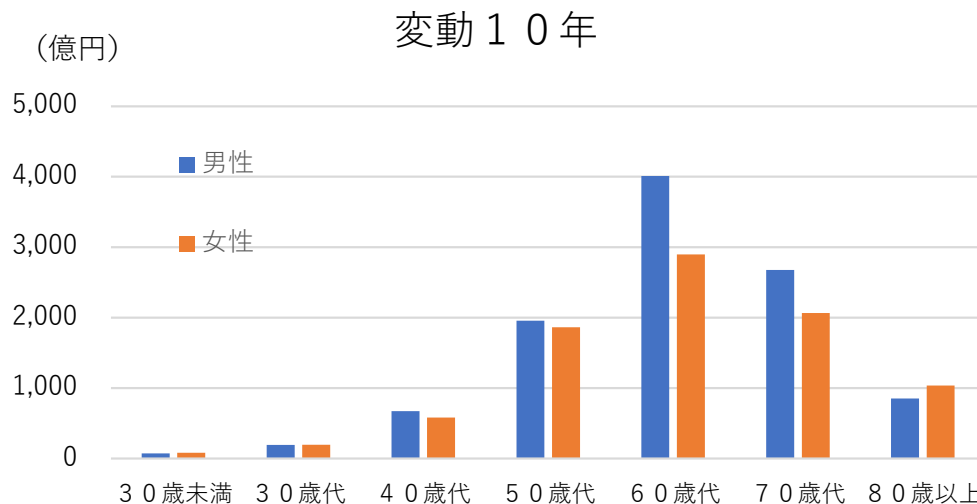
■ 証券会社 ■ 都市銀行 ■ 地銀・第二地銀 ■ 信用金庫 ■ ゆうちょ銀行 ■ その他（信託銀行、信用組合、労働金庫、J A）



個人向け国債の販売動向等について（年代別購入状況）

- 購入額に対する男女別割合は概ね均衡しているものの、商品別に見ると、**変動10年は男性の購入が多く、固定5年及び3年は女性の購入が多い傾向**にある。
- 主な購入層は**50歳代以上の年代**であり、**全購入額の9割強**を占める。また、年代別では**60歳代の購入割合が3割強と最も大きい**。
- 平均購入単価**を見ると、各年代とも商品別では**年限が長い商品の単価が高くなる傾向**があり、また、**年代が上がるとともに単価も上昇する傾向**が見て取れる。

■商品別・年代別購入状況（金額ベース）



■商品別・年代別平均購入単価

（単位：万円）

	30歳未満		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		80歳以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
変動10年	152	216	212	277	342	337	496	462	723	648	1,051	755	1,241	1,049
固定5年	145	173	204	241	343	284	439	369	572	452	624	502	715	630
固定3年	74	174	98	144	152	201	264	250	462	366	564	475	706	626
全体	145	204	204	261	331	316	471	421	664	548	825	595	918	774

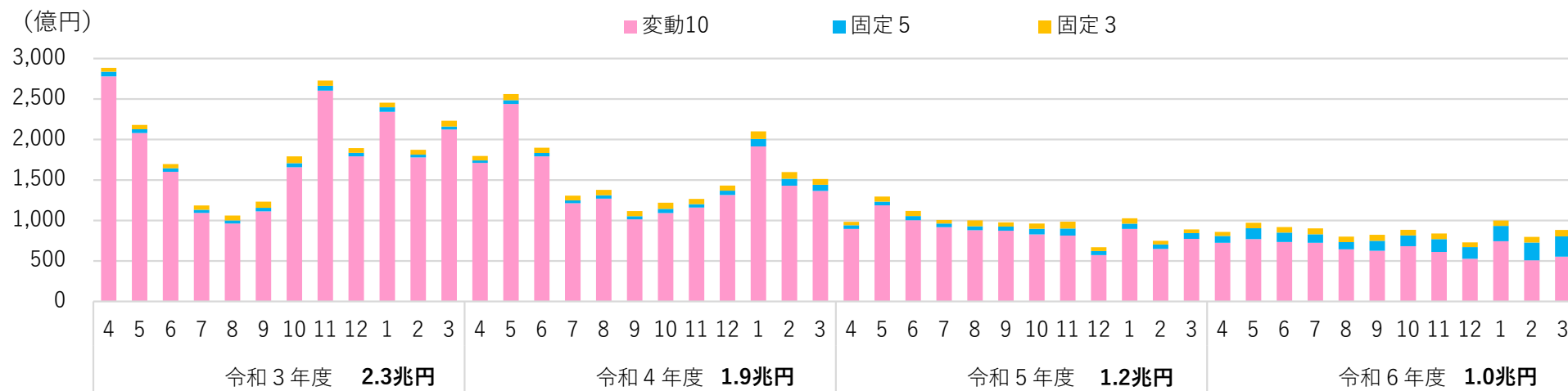
（注）1. 令和6年4月～12月発行債におけるアンケート調査を基に作成（個人向け国債販売額上位50機関及びその他主要な取扱機関が対象）。

2. アンケート結果が販売額全体に占めるカバー率は90%程度。

個人向け国債の販売動向等について（中途換金及び発行残高）

- 令和6年度の中途換金額について、市場金利の上昇等の影響を受け、固定5年及び3年は過去に購入した低金利のものからの乗換目的と見られる中途換金が増加した一方、変動10年は前年度と同様に減少傾向が続いたことから、計1.0兆円（対前年度比▲0.2兆円）となった。
- 令和6年度末の個人向け国債の発行残高は、発行額の増加及び中途換金の減少に伴い、前年度末13.3兆円から15.5兆円（対前年度末比+2.2兆円）へ増加。

■ 中途換金額の推移



■ 発行残高の推移

